

天声人語

中国はひそかに世界一の座をかけたマラソンに挑み、建国100年の節目となる2049年までに米国を追い抜こうとしている――。数年前から折々に聞く「100年マラソン」論である▼提唱したのは米政府の中国専門家マイケル・ピルズベリー氏。4年前に著した『China 2049』で、野心を巧みに隠しつつ米国の弱点を射抜こうとする中国を描いた。米国は油断し、迫る影にも気づいていないと指摘した▼呼応するような発言はかねて中国側からも聞かれた。「太平洋を米中で半分ずつ支配したい」「2049年までに経済や科学で米国を超える」。中国指導部は否定するが、米国内では100年マラソン論の火勢はなお衰えない▼思い出すのは、米政治学者サミュエル・ハンチントン氏の名著『文明の衝突』の一節だ。「中国がさらに発展してアジアの覇権国となったら、日本は米国と中国の双方を覇権国として処遇しなければならぬ。うまくやれるのか」と疑問を投げかけた。20年前に読んだ日は、覇権国家・中国の姿がどうにも像を結ばなかった▼大阪市で開催中のG20サミットもきょうまで。対立点を脇に置いて友好を演出する日中。来日直前、日米安全保障条約に不満をあらわにした米国。もはや一筋縄では行かぬ日米中の三角関係を思う▼100年マラソンで言えば、今年は、急な疲れに襲われる「30代の壁」付近にあたる。壁を境に、走者の差は広がるか、縮まるか。日本はその行方をどう見つめるのか。